

東京工科大学 令和六年度 入学式 来賓祝辞

東京工科大学の新入学生の皆さん、ご家族、教職員の皆様、そしてご来賓の皆様、本日はこのような輝かしい機会にお招きいただき、心より感謝申し上げます。

東京大学副学長として、皆さんの前に立たせていただくことを大変光栄に思います。新たな一步を踏み出す学生の皆さんにとって、これからの大学生活が素晴らしいものになることを心から願っています。

大学は知識を深め、スキルを磨く場所です。しかし、それだけではありません。大学は「夢を育む場所」でもあります。夢は、私たちを駆り立て、未知の世界へと飛び立たせてくれる翼です。

夢を追いかけることは、時に困難に直面することもあるでしょう。しかし、その困難を乗り越えるために、私たちは情熱を持ち続ける必要があります。情熱は私たちを前進させ、新たな可能性を切り拓いてくれます。

大学生活はロマンに満ちた冒険の連続です。新しい友情、恋愛、学問の発見、自己成長の瞬間。これらはすべてロマンの一部です。大学での経験を大いに楽しんでください。

新入生の皆さん、私たちはあなたたちの成長を心から応援しています。夢を追いかけて、ロマンに満ちた大学生活を楽しんでください。そして、素晴らしい未来を切り拓いてください。

この度はご入学、誠におめでとうございます。

皆さんの中で、以上の式辞を聞かれて、違和感を覚えられた人は、何人ぐらい、おられるでしょうか。実は、これまで私が述べた祝辞は、生成AIもある、GPT-4を搭載したMicrosoft Copilotの無料版が生成したものです。「東京工科大学 令和6年度入学式における来賓として、夢とロマンに溢れた情熱的な式辞を考えてください。」と入力

した結果の出力です。

今日、私は、ここに立つ前に、何人かの友人に対し、生成AIを使った祝辞の作成をお願いしましたが、いずれの出力も素晴らしく、どの文章を採用しようかと悩んだぐらいです。

君たちが社会に出て活躍するころは、AI等の技術はさらに進化し、社会が大きく変わっているかもしれません。

日本では、少子高齢化による人口減少が進むでしょう。世界を見渡すと、多くの場所で異常気象や戦争が起こり、情報技術だけでなく、社会そのものが世界規模で大きく変化しているでしょう。

技術が進歩し、社会が変化することは、当たり前のことなのですが、最近はその変化の速度が大きくなっているようにも思えます。私が幼いころは、駅の改札には、切符切りの駅職員が必ず立っており、ホームにも鉄道職員が大勢いましたが、今は、駅には人がほとんど居ません。これは、技術の進歩によって、切符切りや安全管理などの仕事が無くなった例です。

一方、技術とは無関係に変化する社会もあります。昔は、飛行機の中でも、タバコが吸えるのが当たり前でした。飛行機の機内や電車の車内が、タバコの煙で曇っている状況は、入学生の皆さんにとっては、想像がつかないことでしょう。

皆さんが社会人になっているころは、世界では、東西が分断しているかもしれません。

さらに、皆さんが定年退職を迎える頃、そのころは、今でいう定年退職という概念はおそらく無くなっているでしょうが、自動車の運転手という職業は、特殊なケースを除いて、存在しなくなっているかもしれません。お札やコインも使われなくなっているかもしれません。

このように大きく変化する世の中でも、変わらないことも沢山あ

ります。

それは、学びの大切さと、生きがいを探すことの重要性です。AIをはじめとする情報技術がいくら進歩しても、よき友を作ることや、人生を賭けてやりたいことを探すことの重要性は変わりません。

皆さんは、これからの大学生活で、お互いが切磋琢磨できるような友人、また、困ったことがあれば、何でも相談できるような友人が一人でも多くできることを、私は心から願っています。AIに対してではなく、生身の人間に相談することは、とても大切です。

私自身、35年以上が経った今でも、大学時代の友人とは、よく飲みに行きます。飲み会の席では、いつも、「岡部のように、大学の講義をさぼってばかりいた、出来の悪い“最悪の学生”が、大学の教員として活動しているのは、許しがたい！」と昔話に花が咲きます。

事実、私は、学部の子生るときは、極めて不真面目な学生でした。大学に行かずにアルバイトにとっても熱心で、海外を含めた旅行三昧の生活でした。また、バイクに乗って遊んでばかりいました。私だけでなく、周囲の友人も、「岡部は留年する。」と思っていたので、私は、4年生のときの研究室の配属のガイダンスすら出席しませんでした。このため、友人が、私の研究室の配属先を、勝手に決めておいてくれました。その結果、当時は、もともと人気が無かった研究室に自動的に配属されたのですが、その研究室は、「非鉄冶金 特殊金属製錬学」今の言葉でいうと、「未来材料…チタン・レアメタル」の研究室でした。

このようにして、偶然にも、大学4年生の終わりに、卒論のテーマとして、はじめて、チタンをはじめとするレアメタルに、私は出会いました。チタンの研究を始めみると、とても面白く、私は、この研究テーマに魅了され、研究に打ち込むようになりました。海外への放浪の旅も、バイクで山道のコーナーを攻めるのも止め、それまでの生活も大きく変わりました。それから35年以上が経ちますが、今も、

チタンをはじめとするレアメタルの精錬やリサイクル技術の研究を
ひたすら続けています。

今から思えば、面白い研究テーマ、やりたい仕事に出会ったことは、
偶然の賜物以外、なにものでもないのですが、私がとてもラッキーだ
ったのは、良き友や恩師を持ったことです。私の経験から皆さんに伝
えたいことは、良き友や恩師、メンターを持つことと、さらには、や
りたいことを見つけること、この二つの大切さです。

私自身の、レアメタルとの出会いは、大学4年生の終わりでしたが、
この偶然の出会いが私の人生を大きく変えました。今でこそ、レアメ
タルの研究は、一般社会から評価されていますが、当時は、「レアメ
タルの精錬やリサイクルの研究？ そんなことやって何になるの？」
と、誰も評価してくれませんでした。

しかし、チタンの製造技術の研究に取り組んでみると、とても面白
く、周囲からの低い評価は、私は全く気にせずに、研究に没頭しまし
た。チタンの新製造技術の研究はとても難しく、実験は苦労の連続で
した。一時、私の指導教員であった恩師からも「チタンの研究を続け
ていては、研究者として食べていけないので、別の研究テーマに変え
たらどうか。」とサジェッションされたこともありました。しかし、
私にとっては、難しいテーマだったからこそ、チャレンジしてみたく
なり、また、誰も取り組んでいなかったので、チタン製錬の研究は、
とてもやりがいもありました。

すでに、将来やりたいことが決まっている人は、夢に向かって突き
進んでください。また、私のように、入学時には、何をやったら良い
のかわからない人は、多くの友人と交流し、さまざまな可能性を模索
してください。

大学生活は、新しい友情を育み、異文化を体験し、自分自身を見つ
め直す機会でもあります。皆さんが、これから出会う人々、参加する

プロジェクト、そして直面する困難や挑戦課題は、皆さんの人生において貴重な宝物となるでしょう。

チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力といった、教室だけでは学べないスキルの獲得にも、ぜひ積極的に取り組んでください。これらの経験が、将来、皆さんを、様々な状況で成功に導くための基盤となるでしょう。

大学は、皆さんが自分自身と向き合い、真の興味と生き様を見つける場所です。授業だけでなく、部活動、ボランティア活動、インターンシップ、バイトなど、多様な活動に挑戦し、自分の可能性を広げることも大事です。これらの経験を通じて、皆さん一人ひとりが独自の道を見つけてください。

最後に、私は、新入学生の皆さんの「未来に対する夢と希望」が、「東京工科大学での学び」と、「友人との交流」を通じて形となり、豊かな未来を実現されることを、心から願っています。

もともと、「夢と希望」は誰でも持てますが、それを実現する「志」、「構想力」とか「ヴィジョン」と言ってもよいでしょうが、この「志」を貫く、あくなき執念がないと夢は実現しないかもしれません。これを、肝に銘じておいてください。

皆さんがこの大学での経験を通じて、自己実現のための力を育み、将来、社会に貢献されるものと期待しています。

今日は、桜が満開です。満開の桜とともに、皆さんの人生における新しいスタートを心から祝福し、皆さんの成功と幸福をお祈りいたします。

令和六年 四月 四日

東京大学 副学長 岡部 徹